

石狩市風力発電ゾーニング手法検討委員会 作業部会開催結果報告書

平成30年1月30日

部会名称	平成29年度第1回動植物の検討に関する作業部会 ※3部会合同開催	
開催日時	平成29年12月26日(火) 10:00~12:15	
開催場所	石狩市総合保健福祉センター「りんくる」 交流活動室	
出席者	検討委員	長谷川
	部会員等	部会員：浜尾、大内、丹野、菅原、田中、宮田、内藤、樋口、寺島、先崎、謝、北沢、石岡 アドバイザー：松井、佐藤
欠席者	検討委員	松島、藤井
	部会員等	大田、渡邊、柿崎、秋山、田中、小林 アドバイザー：赤坂
事務局	(石狩市) 武田 (委託事業者) 株式会社パスコ 早坂、新開	
傍聴者数	4名	
議題等	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 説明 <ul style="list-style-type: none"> ・風力発電ゾーニング計画について (1) 石狩市ゾーニング計画について 資料1 (2) ゾーニング計画の事例について 資料2 3 情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ・風力発電を取り巻く現状等について 4 説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ゾーニングマップの作成手法 資料3 5 意見交換 <ol style="list-style-type: none"> (1) 部会長の互選 (2) 意見交換等 <ul style="list-style-type: none"> ・ゾーニング事業に関する内容、不明点等の確認 ・追加すべき情報や項目に関する意見、要望 6 閉会 	
結果	<p>○議題2、4について事務局から説明。</p> <p>○議題3に関して、一般社団法人海洋産業研究会中原氏、NPO法人Envision 環境保全事務所 長谷川氏より講演。</p> <p>○議題5 意見交換</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 部会長に長谷川委員を選出し、部会のファシリテーターを依頼。 (2) 部会員参加者による意見交換を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・主な発言内容は、別紙「会議内容の記録」のとおり。 	

(部会員等氏名の表示については敬称略)

会議内容の記録

議題5 (2) 意見交換等

- ・ゾーニング事業に関する内容、不明点等の確認
- ・追加すべき情報や項目に関する意見、要望

(ファシリテーター)

色々な説明をお聞きいただいたが、ほかに進め方であるとか、内容などについて不明だった点とか、質問があればそのところをご質問いただければと思う。

(部会員)

今後の2月の部会の予定はどうなっているか。それまでに何回あるのか。

(事務局)

年度内はもう一度部会を開き、第1次中間検討案というものまで作成して、成果品とさせていただく予定となっている。

(ファシリテーター)

第2回の作業部会での簡単な次の項目のイメージはあるか。

(事務局)

今回は第1回の作業部会ということで、まずは今までのプレゼンテーションにあるように、ゾーニングの作業等をどのように進めているかという説明と、現在のところの一次スクリーニングの説明を行ったところである。今回はそれを受けて、今後の進め方とか、こういったところを調べた方が良いというようなところについて忌憚のない意見を出していただくというのが今回の趣旨である。それを受けて、事務局でさらにスクリーニングを進め、2月を予定しているが、第2回の作業部会ということで一度アウトプットを作成し、さらにそれを叩いていただく形が第2回のイメージになる。

(ファシリテーター)

ここでのスクリーニングというのは、情報収集というようなニュアンスで良いか。

(事務局)

はい。

(ファシリテーター)

今の段階で、次回の作業部会までにほかにもっと収集できる情報がないか、意見を出していただくことで良いか。

(事務局)

はい。出していただければ良いと思う。

(ファシリテーター)

検討委員会ではほかの部門も併せて考えていくことになるが、今回の作業部会はもう少し具体的な、ここであれば動植物であり、それぞれに分かれてもう少し細かいところを議論していただくことになる。

(部会員)

風力発電というのは、手を挙げて金と資材を調達できたら、石狩市のどこでもできるということか。

(ファシリテーター)

簡単に建てられたら困ることになる。

(部会員)

チェックするところは石狩市しかないのか。道とか国とかにはないのか。

(事務局)

風力発電は大規模なものになると、国の環境影響評価法というものに係る事業になるため、最終的には経産大臣が認可をする形になる。その環境影響評価の手続きの中で、北海道の環境影響評価を審査する部署と環境省、これが環境に対する意見を出す。もちろんこの事業に対して石狩市も意見を出すことができるし、環境影響評価の手続きの中で、住民の皆さまにも意見を求め、賛成・反対などの意見を出すことができる、という環境影響評価上のプロセスにも乗る。しかし、この事業はさらにその前に、あらかじめ我々が、事業が突然きたときに、ここは良くないのではないかということ判断できる資料がまずない。事業者に対しても同様である。ここに（風力発電事業を）建てようと思ったところ、とてもリスクな場所だった、ということがないように、双方が環境を前提に、あるいは事業性を前提に、どういう場所が事業として成り立ちそうかということをおあらかじめ知っておくということが、ゾーニングの目的である。

(部会員)

石狩市が関係すると少しは影響があるのか。産廃事業者に対しては、道の認可事業だから、地元が意見を言っても無駄である。今までは道が良いと言えば終わりであった。

(事務局)

そういう意味では、風力発電は環境影響評価という国の手続きで審査されるため、ハードルはかなり高くなる。

(部会員)

しかし手続法だから、手続きをして要件を満たしていれば認可になる。

(部会員)

市で検討したゾーニング結果が事業に反映されることになるのか。

(ファシリテーター)

計画が道や国に上がっても、それだけで石狩市として禁止できる効力はおそらく持たない。しかし国、経産省からは地元の意向を反映するようとなるため、できるだけ地元としては反対している、あるいは地元としてはこう考えている、という意見を石狩市としてもしっかりまとめないといけないし、石狩市民としても考えないといけない。今回の検討で、仮に導入が可能なエリアもしくは規制が必要なエリアとなっても、そこがそのまま手続き上で担保されるということはない、ということになります。皆さんに議論していただいて作るので、無視されることがないように、しっかりアピールもしていけないといけない。

(部会員)

ゾーニングをするにあたって、鳥類はどこまで徹底的に調べるのか。

(事務局)

ファシリテーターに色々とアドバイスを頂きながら、あとはメンバーになっている赤坂先生からもアドバイスを頂いて調査を行うが、市域すべてを調査することはできない。ただ、調査できる範囲の中で、踏査しなかった範囲も確からしく評価できる手法を考えている。

(部会員)

解析で補正するのか。

(事務局)

はい。たとえば色々な植生のバリエーションがある中で、その幅を見ながら全域を統計的に処理して評価できるようにしたいと考えている。今回コストの面も加味しながら調査しなければならないが、できるだけ汎用性を持たせるためにも、データを追加することでさらに詳しくできるとか、市民の皆さまが独自で調査された結果がオンできるとか、そのような方法も考えていきたい。

(ファシリテーター)

公開方法も含めて検討する必要があるし、希少種、情報公開を慎重にする必要もある。今、事務局からも話があったように、この事業は確かに来年度までであるが、そこに縛られずに、その先も続けられるような調査をぜひ優先順位を考えて提案していただきたい。

(部会員)

事業者が国に申請（アセス図書）した内容について、環境省が環境について判断していると思うが、環境省は調査もして書類を審査しているのか。申請と剥離していることはないのか。洋上であれば魚や海獣に対しての影響がどれくらいあるとか、漁民に対してどれくらい影響があるとか、評価しているが、それについて嘘を書いているかということをチェックするのか。

(ファシリテーター)

単にどちらが正しいかだけではなくて、まったく行われていない調査もあるだろうし、あと、行われていてもそれをこちらでは使えないというような問題もある。石狩市では、既に事業の計画もたくさんあるため、現在計画しているところにも働きかけて、情報を提供してもらう、そういうことは必要である。

(部会員)

環境アセス図書を色々見てきたが、既に審査が通った事業のアセスに合わせて、次のアセス図書を作っているのでは中身がない。だからアセス図書をあてにするのはどうかと思う。

(部会員)

石狩のこの平地の部分から北に山地にかかる部分、北の方はほとんど既往文献はないと思うがどうか。

(事務局)

確かに少ない。そのため今回、特にリスクが高いとみられている鳥については少し現地調査をして補足しようと考えているのと、たとえば植生なんかは衛星画像からの判読などで面的に把握しようと考えている。

(ファシリテーター)

ある情報はどんどん使っていただければと思うが、こういう情報もありそうだったらぜひ次回までに調べてほしいということとか、この後でも結構かと思うので、部会員にはそれをまた整理していただければと思う。次回の作業部会は、情報収集として必要な情報をさらに考えていただくことと、実際この後、これもできるかどうかを考えながらであるが、さらなる調査として取り組みそうなことを考えていただきながら、調査資料をどう集めていくかというような流れになるというようなイメージでよろしいか。

(事務局)

はい。今は一次スクリーニングということで、乗っていない情報がたくさんあるため、それを引き続き我々の方で取り込み、具体的なお意見をいただきながら、さらに来年度に向けて進めていきたい。

(ファシリテーター)

ご意見も頂いていたが、今、石狩市ではいくつかの事業もあるので、そこで行われている調査については情報提供を求めていただいて、出てきたものは評価していただきたい。

(事務局)

わかりました。アセス図書についてはいくつか打診をかけていて、いくつかについてはご了承いただいているので、整理する。

(部会員)

文献とかになっていなくて、好きで回っている市民が色々な情報を持っていると思うが、そういう情報も拾った方が良いと思う。

(ファシリテーター)

せっかくこのような場があるので拾えるなら拾ってはどうか。

(部会員)

情報の信憑性の問題がある。

(部会員)

情報を検証する方法がないだろう。

(部会員)

浜益とか厚田についてはこのような情報すら相当少ない。

(事務局)

使えるかどうかは情報の内容を見て判断するので、口頭での情報提供では難しいが、データになっていれば使えるため、提供いただければと思う。

以上